

12月の模擬試験で偏差値を60にするには
—一度「理解」したことを「楷書」で書けるようにしよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 業者模試で良い点数をとり、偏差値をとりあえず60にする秘訣は何ですか。一言で教えてください。

A (林明夫。以下省略)現在の偏差値が 60 以下の科目は、一度「理解」したこと、つまり「うん、なるほど。これはこうだったのか。」と「腑(ふ)に落ち」たことが「何も見ずスラスラ言える」「何も見ず楷書(かいしょ)で書ける」ようになるまで、「定着(ていちゃく)のための作業時間」を大幅に増やすことです。これだけで偏差値は 60 までアップします。分かりましたか。

Q もう少し具体的に教えてください。

A 偏差値が 60 未満なのは、一度「うん、なるほど。」と「理解」した基本的な内容を、答案用紙に「楷書」で再現できないためです。学校や開倫塾のテキストの内容は、学校や開倫塾の先生の授業中の指導で「うん、なるほど。これはこういうことだったのか。」と腑に落ちた、つまり一度は「理解」していると思います。もし自分で調べても十分に「理解」していないことがあれば、学校や開倫塾の先生に、「これはどういうことなのかよく分かりません。」と、遠慮なくどんどん質問して下さい。学習する内容について「理解」することがまずは大切です。自分で調べたり先生に質問することによって、よく分からないことをゼロにして下さい。

ただ、問題は、一度「うん、なるほど。」と「理解」したことでも、人間はほとんど忘れてしまうということです。テストの大半を占める基本的な問題で点をとる、つまり偏差値 60 をとることは、一度「理解」した内容を、テスト用紙に「再現」できることを意味します。

Q どうしたらいいのですか。

A 一度「理解」した内容を、まずは①「何も見ないでスラスラ言えるようにすること。」②「スラスラ言えるようになったら「何も見ないで楷書で書けるようにすること。」③「 $(a-5)(a+5) = a^2 - 25$ のような簡単な計算は、問題を見た瞬間に条件反射でパッと答えが書けるまでにすること。」この①～③を開倫塾では「定着」と言っています。一度「理解」したことをすべて「覚え込む」ことを「定着」といいます。もっと言えば、学校や開倫塾のテキストを隅から隅まで一つ残らず覚え込み①「何も見ないで口をついてスラスラ言えるまでにすること。」②「何も見ないで楷書で書けるまでにすること。」③「テキストに出ている問題は、問題を見た瞬間に答えが出るまでにしておくこと。」これが「定着」です。

Q また、お聞きしますが、「定着」のためにはどうすればよいのですか。

A 「定着のための作業時間」を十分にとる以外はありません。「定着」、つまり正確に「覚え込む」ためには、「作業時間」が必要です。例えば、interesting(興味のある、おもしろい)という単語の意味はすぐに「理解」できても、正確に書けるようになるには何十回も書き取りの練習をすることが欠かせません。そのためには、「時間」が必要です。一度「理解」したことを①「スラスラ言えるようにすること」②「楷書で書けるようにすること」③「問題を見た瞬間に条件反射で答えが出るようにすること」のために、「定着のための作業時間」を十分とって下さい。

Q 学校や開倫塾の授業以外にも自分で勉強するのですか。

A 当然です。授業時間中にも「定着のための作業時間」はとりたいのですが、「理解」してもらう内容が余りにも多く、学校でも開倫塾でも十分には「定着のための作業時間」をとれないのが実態です。学校の休み時間、開倫塾の「自習室」、家での勉強時間などをフルに活用して、一分でも多く「定着のための作業時間」を確保して下さい。

Q なぜ「楷書」なのですか。

A 試験官、つまり採点する先生は、何百枚も採点しますので、好き勝手な文字や読みにくい文字は、採点者泣かせと言えます。楷書で丁寧に書くことが採点者への思いやりでありエチケットです。又、読みにくい文字は採点者に誤解を与え、非常に不利です。数学やアルファベットも美しい文字、丁寧(ていねい)な文字を心掛けて下さい。

Q 最後に一言どうぞ。

A テストは基本はペーパーテストですから、「理解」したことが正しく書けなければ点になりません。偏差値 60 未満の人は、正しく書く、つまり定着のための作業時間が不足しているだけですから、その時間を大幅に増やしてもらいたいのです。勉強は自分でやるしかありません。スポーツと同様、受験勉強も努力は必ず報われますし、「練習は不可能を可能」にします。あごを引き、歯を食いしばって頑張りましょう。